

「農業技術の匠」： しもおか きゆうごろう 下岡 久五郎さん（つづきぐん う じたわらちよう 京都府綴喜郡宇治田原町）

～ 品種特性及び標高差等の組合せによる高品質茶安定生産技術 ～



〔下岡 久五郎さん〕

1 技術確立の背景(目的)

(1) 京都府山城地域は、宇治茶の生産地として全国的にも有名ですが、茶園は平坦地のみならず中山間地まで幅広く分布し、多くは条件不利地域にあります。

このような地域で経営を安定させるためには、消費動向に合わせた高品質で複数の茶種を生産する等の工夫が必要でした。

(2) 下岡氏は、優れた観察力と長年の経験から、玉露、てん茶等すべての茶種を導入してリスク分散を図るとともに、中山間地という標高差等を活かし、収穫期の異なる複数品種を導入すること等により、適期収穫期間の拡大、栽培面積の拡大、高品質化に結びつけています。

2 技術概要(技術効果)

(1) 標高差(300m)のある5か所の茶園をうまく利用し、茶種や早生・中生・晩生の11品種の導入に加え、被覆方式(1段・2段)を巧みに組み合わせることで、適期収穫期間を約1ヶ月まで拡大することを可能にしました。

(2) 土壌診断の実施、点滴施肥により慣行に比べ3割少ない施肥量を実現しました。

また、天敵を利用した防除技術を導入し、安全・安心な茶づくりを推進しています。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

(1) 農家9戸が共同で設立した、地域のてん茶工場(農事組合法人碾茶うじたわら)では、本技術により適期収穫された新芽を利用しています。

(2) 町内に、当該茶園管理体系の組合せを活用したてん茶工場を所有する農家も見られるようになりました。

(3) 複数の茶種を生産する農家が地域に広まってきており、栽培には不利とされる地形をうまく活かした産地として、地域活性化に貢献しています。



〔茶園内で、品種や被覆方法の組合せにより収穫期間の拡大を図っている。〕

※最寄りの普及指導センター { 山城北農業改良普及センター
住所：京都府京田辺市田辺明田1
TEL：0774-62-8686

